

平成8年度通常総会開催

クリシュナ・B・バルマ氏 新名誉会員に



総会で挨拶する村木会長

平成八年度通常総会が五月十八日、東京都千代田区三崎町の東京グリーンホテル水道橋で開かれた。

この通常総会には会員百五十一名が出席、議案 ①平成七年度事業報告及び収支決算、財産目録承認の件 ②平成八年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件 ③細則改定の件 ④平成八年度除籍者の件 ⑤その他について慎重審議を行い、いずれもこれを原案どおり可決、承認した。

議案審議に先立ち、中川武総務・集會担当常務理事から、三月末現在の会員数は五千四百九十九名、委任状二千八百十三名、出席者と併せ定款に定めるところの三分の一定数千八百三十三名を上回り、総会成立の報告があった。

定款二十九条により、村木潤次郎会長が議長席に就き、中川理事が会務報告を行ったが、とくに、ネパール

のクリシュナ・B・バルマ氏を去る四月十八日の評議員会で名誉会員に推薦、五月九日の理事会に報告された旨発表された。

この件に関しては村木会長より、本年五月九日のマナスル登頂四十年を迎えた背景で、氏が登山許可取得に多大な尽力をされたと同時に、日本隊のマナスル成功にも大きな貢献をされたこと、氏の人となりを紹介された。氏は現在、日・ネ両国の友好親善の面で尽力されている。

会務報告では、山研利用規定の変更や九十周年記念事業委員会・関連委員会が本日付で解散されたことも報告された。

■議案審議について

議案審議では、平成七年度事業報告(別掲)を中川理事、同年度収支決算、財産目録(いずれも別掲)を吉永英明財務担当常務理事が詳細に



1996年(平成8年)
7月号(No.614)
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価一部 150円

目次

平成8年度通常総会開催	1
平成8年度全国支部長会議	3
追悼・大澤伊三郎先輩を偲ぶ	3
平成7年度事業報告	4
収支計算書	5
正味財産増減計算書	6
貸借対照表	6
財産目録	7
監査報告	8
平成8年度事業計画(案)	8
収支予算書(案)	9
定款について	10
日本山岳会細則・細則改定(案)	10
支部だより	11
北海道支部 熊本支部 福岡支部 東西南北	
谷川岳のオオカミ	12
真っ白なミヤマキリシマ	12
海外の山	13
書籍受入報告・住所変更	14
新入会員	15
会務報告	16
山の切手・10	17
会員異動・ルーム日誌	18
INFORMATION	19

▶日本山岳会事務取扱時間
月・火・木・土曜日 10~20時
水・金曜日 13~20時
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜日を除く毎日 13~20時
▶ルーム夏休み 8月19~24日

説明を行った。

それによると平成七年度の収入は予算額六四七二万円に対して、決算額一億三二〇一万四八四〇円で六七二万九千四百〇円の大黒字。これは予算に計上されていなかった「環境事業団環境基金」助成金、マカール登山隊一九九五の「スポーツ振興基金」助成金、上高地山研水力発電工事寄付金、九十周年記念事業募金や一二パーセントの会費、入金収入、九十周年記念服飾品などその他事業収入、会員名簿作成による広告料収入などが大きく寄与している。ただし、受取利息は金利低下を反映、予算額の四〇パーセントに止まった。一方支出面では、予算額七三三九万三〇〇〇円に対し、決算額一億三六七〇万四八五五円で六三一一万八千五百〇円の増加。大きく目立ったのはマカール登山を含めた九十周年記念関連のその他事業費支出で、運営管理費は若干の増減はあるものの、予算額を下回った。

財産目録は資産合計三億五八七四万四一六六円、負債合計六八一万〇二二〇円、差引正味財産三億五一九三万三九四六円である。

これに関し川崎巖監事から、平成七年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録を監査し、正確妥当なことを認めると

の報告があった。

平成八年度事業計画(案)及び収支予算(案)(いずれも別掲)についても中川、吉永両理事から詳細な説明がなされた。

事業計画の主たるものは、集会では五月二十六、二十七日の第二十回若葉山行、六月二日の第五十回ウエストン祭、七月八月のカナダ山岳会との合同登山。九月四日の東海支部ウルタル峰登山報告、十月二日の立正大学チョモランマ峰登山報告。十二月七日の年次晩餐会や、七月九日のカジタピッケル、アイゼン講演会、九月一日の登山靴の科学的検討講演会。海外登山として青年部K2峰登山隊一九九六派遣など。

これに対する予算は、会費値上げを前提として前年度比一三〇〇万円増の七七七二万円と設定、支出は前年度比六二九万四〇〇円増の七八八万七〇〇円。支出で目立つものは五十周年を迎える越後、信濃両支部を含めた支部関係費、会報増ページに伴う出版費、百年史に対する調査研究費、一〇四号室棚設置のための什器備品費など。なお、支部運営費は事業費の中の支部関係費に繰り込まれ、細則に定める支部運営費のアップで大幅増となったもの。細則改定については、平成七年度通常総会で入会金、会費値上げに伴

今年もなつてで会いましょう

う定款改定が承認されたものの、文部省への認可申請の段階で、満二十五歳以下の入会者に限り入会金を免除するとの文言が、平等性を欠くとの理由で不認可となったため、定款でこの項目を削除し、細則で補完することになったもの。これにより支部運営費は一人当たり二五〇〇円となり、還付は助成と読み替えられた。また、二十六歳未満の入会者については入会金が免除されることになった。

平成八年度除籍者の件については中川理事より、知った名前があれば極力会にとどまるよう働きかけてほしい、との要望があった。

その他では青年部K2登山隊の山本篤隊長、松原尚之副隊長、谷川太郎登攀隊長が紹介され、山本隊長は「無事故を前提に全力を尽くす。八月下旬、オリンピックが終わる頃、いい報告ができるよう、十大学、十九名、力を合わせ頑張ります」と決意表明。

溝口洋三山研・資料担当理事からは山研利用規定・管理規定制定に関して説明が行われた。

この総会の議事録署名人には高原

三平、堀嘉余子両会員が指名された。
■山岳会が変わるためのナーシングウッドに……と村木会長

総会を終え、同所で懇親会が坂本正智総務委員の司会で開かれた。

冒頭挨拶に立った村木会長は「昨年九十周年を迎え、今年は百周年への第一歩となる。あと四年すると二十一世紀だが、世の中が移り変わり変化してゆく中で、山岳会もそれなりに変わってゆかなければならないことは肝に銘じて分かっているが、変えるのは老人ではなく、これからの若い方だと思ふ。そのためにも多少の若力になれることが私どもの立場である。木の中にもナーシングウッドというものがあつて、自分が滅び、自分が朽ち果てていきながら、若芽を育てていく。まさに山岳会というところはそういうところであつてほしい。これからどういう方が、どのような構想で、どのように発展させていかれるのか、皆様のお力添えをいただきたい。ナーシングウッドになる方は、非常に尊いお方で、私も半分ぐらいは浸っている。皆様もそういう気持ちで会を育てていただきたい。それが会として大切なことだと

思う。幸いなことにまさに長老の名に相応しい名誉会員の方々が、大勢ご出席くださっているので、長幼の序なく、お互いに話し合い、次の世代を論じていただきたい」と述べた。

乾杯はこの総会のためオーストラリアから里帰りした中村テル名誉会員。「皆さんの山を愛する心と、いつまでも山に行ける健康を願って」と音頭をとった。

ついで本年九十三歳の吉沢一郎名誉会員が大拍手の中迎えられた。会食をはさんで日下田実(第三次マナスル遠征隊長)・川崎泰男(兵庫山岳連盟副会長)・国沢鎮雄(高知県山岳連盟会長)・伊達篤郎(元宮城支部長)各会員からスピーチが寄せられた。懇親の輪はなかなか尽きなかったが、中村純二副会長の閉会の挨拶で幕を閉じた。懇親会出席者は百三名。(高田眞哉)

平成八年度 全国支部長会議

五月十八日十時三十分から東京グリーンホテルにおいて、総会に先立ち全国支部長会議が開催された。出席者は本部を含めて四十五名。

日本山岳会団体傷害保険、指導者賠償責任保険、全国支部懇談会(東海支部)、第五十回ウエストン祭(信

濃支部)、名誉会員推薦、中華民国山岳協会来日などの議題について協議し、最後に各支部から状況報告があり、十二時五分に終了した。

追悼 大澤伊三郎先輩を偲ぶ



岩間弘雄

この春までは変わったこともなくお元気な様子でしたが、六月五日早朝、お亡くなりになられたとの電話があり、驚愕いたしました。大澤先輩のご逝去は、山梨県の岳人にとっては最大の星を失った思いです。

日本山岳会には一九二七年に入会(会員番号一〇五九)され、永年会員であり、昨年には名誉会員に推荐されました。

明治三十一年八月十二日、甲府市若松町の旧家に生まれ、先代からの大澤酒造会社を継がれました。大学在学中は、山岳部には入部されませんでした。山への情熱は大きく、明治四十五年富士登山に始まり、南

アルプス、奥秩父連山、八ヶ岳と登山を重ね、とくに大正十三年五月、残雪の南ア・赤岳悪沢山行は一六ミリフィルムで全国で紹介されました。大正十三年、県下の諸山岳会を統一し、強力な山岳会を作るために努力され、甲斐山岳会を創立。昭和七年にはスキースケート倶楽部を創立しました。

大先輩の大澤さんとの山行は多くはありません。一回目は第四回国体富士登山で、当時の松方会長、横さん、堀田さん、関根先生など、いま思えば懐かしい方々との山行でした。二回目は秩父瑞牆山で行われた九三年日本山岳会全国支部懇談会です。

須玉町体育館に岳人三百人が集った講演会のあと、大澤さん持参の酒樽で鏡割りをし、大いに盛り上がりました。秋の底冷えの会場も最後までにぎわい、大澤さんも持病の膝がだいぶ痛かったようですが、終りまで退席されませんでした。全国支部懇談会終了後、これを機会に支部長を後輩に譲りたいと申し出られ、四十五年間の支部長を退かれました。

顧みれば、甲斐山岳会、昭和初期には甲府南嶺会山梨山岳連盟を創立され、多くの岳人に慕われ続けました。何よりも貴重な方を失い、悔まれてなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東京グリーンホテル 都内に3店舗654室

各種ご宴会、ご会合にご利用下さい



- 水道橋店 ●千101 東京都千代田区三崎町1-1-16 TEL.03-3295-4161
- 御茶ノ水店 ●千101 東京都千代田区神田淡路町2-6 TEL.03-3255-4161
- 後楽園店 ●千112 東京都文京区後楽1-1-3 TEL.03-3816-4161

明日を築き業界をリードする

コンクリート製品の総合メーカー



本社/酒田市上本町6-7

☎ (0234) 23-5111

9月30日	探索山行「奥美濃の植物」(科学)	奥美濃
9月31～10月1日	きのこ山行(集会)	鐘山・博士山
10月4日	ムスターグ・アタ山群報告会(青年)	本会
10月7～8日	小川山クライミング集会(青年)	小川山
10月7～8日	岩登り技術研修会(指導)	小川山
10月13日	鳥海山イヌワシ調査(自然保護)	八幡町
10月14日	支部長会議(総務)	新高輪プリンスホテル
10月14日	90周年記念晩餐会(総務)	新高輪プリンスホテル
10月14日	“フォーラム(総務)	新高輪プリンスホテル
10月15日	自然保護全国集会(自然保護)	本会
10月21日	90周年記念ブロック別(北陸ブロック)式典(石川、富山、福井)	シティホモンドホテル
10月22日	“山行(北陸ブロック)	医王山
10月26日	カナダ山岳会P・モロー氏と懇談会(海外)	メルバルクホール
10月26日	ネパール山岳協会会長ダワ・ノルブ氏歓迎会(海外)	南国酒家
10月26日	第3回山を語る(図書)	本会
10月28日	新入会員懇談会(総務)	本会
11月1日	千葉工大ナンガバルバット峰報告会(青年)	本会
11月3～7日	山の自然学第40回講座(問題解決の一部に参画するための調査)(自然保護)	白神山地
11月11日	90周年記念ブロック別式典(北海道)	札幌共済ホール
11月12日	“山行(北海道)	樽前山
11月11～12日	鳥海山イヌワシ調査(自然保護)	盛岡
11月18日	大学山岳部監督会議(青年)	全理連ビル
11月18日	山の自然学第41回講座(山の自然学の中級講義と実習報告)(自然保護)	蔵前工業会館
11月19日	マラソン大会(学生)	皇居外苑
12月6日	青年部OB現役懇談会(青年)	クリオホール
12月23～25日	沼尻スキー調査(集会)	沼尻
1月8日	2000年開催カナダ山岳会合同登山打ち合わせ(海外)	本会
1月10日	農大トゥインズ峰報告会(青年)	本会
1月13～15日	沼尻スキー懇親会(集会)	沼尻
1月18日	チベット自治区要人歓迎会(海外)	六本木楼外楼
1月20日	山の自然学第42回講座(自然保護活動の在り方について)(自然保護)	蔵前工業会館
1月20日	90周年記念ブロック別式典(東海)名古屋都ホテル	
1月21日	“山行(東海)	誕生山
1月21日	日本山岳レスキュー協議会雪崩対策研修会(遭難対策)	谷川岳
1月27日	90周年記念ブロック別(関西、山陰ブロック)式典(関西、山陰)	大阪東洋ホテル
1月28日	“山行(関西、山陰)	汐鳴山
2月3～4日	アイスクライミング講習会(青年、学生)	ハヶ岳
2月7日	カンチェンジュンガ峰報告会(青年)	本会
2月17日	山の自然学第43回講習(カリキュラム4とNGO研修報告)(自然保護)	蔵前工業会館
2月23日	第24回山岳史懇談会(図書)	本会
2月24～25日	全国支部事務局担当者会議(総務)グリーンホテル	
2月24～25日	酸性雨調査(自然保護)	丹沢
3月1日	第27回山岳図書を語る夕べ(図書)	本会
3月5日	16mmフィルム映写会(フィルムビデオ)	本会
3月6日	日大チョモランマ峰報告会(青年)	本会
3月10日	山の自然学第44回講座(インタープリターの実地体験)(自然保護)	高尾山
3月16日	オリエンテーション(総務)	本会
3月16～17日	自然観察会(自然保護)	秩父
3月16～24日	山の自然学第29回講座(ネパールの石楠花林実地調査)(自然保護)	ゴラバニ
3月23～25日	山岳スキー研修会(指導)	菅平

社)日本山岳会平成7年度事業報告

(7. 4. 1～8. 3. 31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催		
(A) 集会		
4月2日	山の自然学第30回講座(カタクリを通して水河期の植物を学ぶ)(自然保護)	秋川
4月9日	新入会員歓迎サクラハイク(集会)	弘法山
4月25～27日	鳥海山イヌワシ調査(自然保護)	酒田市
4月29～5月7日	山の自然学第18回講座(ヨセミテ国立公園調査)(自然保護)	ヨセミテ
5月13～14日	第19回若葉会山行調査(集会)	栗ヶ岳・守門岳
5月20日	支部長会議(総務)	グリーンホテル水道橋
5月20日	平成7年度通常総会(総務)グリーンホテル水道橋	
5月27日	第2回古道を歩く(図書)	笹子峠
5月28～31日	山の自然学講座第31回(黒味岳・西部林道調査)(自然保護)	屋久島
6月1～30日	山の自然学第33回講座(環境月間に相応しい自主活動)(自然保護)	各地
6月4日	ウエストーン祭(信濃支部)	上高地
6月7日	シータチュチュラ峰報告会(青年)	本会
6月9～11日	山の自然学第32回講座(インタープリターの実地訓練)(自然保護)	上高地
6月10～11日	第19回若葉会山行(集会)	栗ヶ岳・守門岳
6月～3月	山の自然学実習②として風蝕地形の調査のため風速計等現地を設置し観測(自然保護)	木曾駒ヶ岳
6月17日	90周年記念ブロック別(九州ブロック)式典(東九州、福岡、熊本、宮崎)	大分コンパルホール
6月18日	“山行(九州ブロック)	九重山
6月17～18日	谷川岳合宿(青年)	谷川岳
7月2日	中国、ネパール山岳協会関係者来日歓迎会(高所)	南国酒家
7月5日	ムスターグ・アタ山群社行会(青年)	本会
7月8日	90周年記念ブロック別(京都、岐阜ブロック)式典(京都、岐阜)	アストロパーク
7月9日	“山行(京都、岐阜ブロック)	三岳山
7月15～17日	山の自然学第34回講座(山の植生の成長)(自然保護)	浅間山・白根山
7月29日	山の自然学第35回講座(山の自然学と自然保護の講義)(自然保護)	蔵前工業会館
8月1～31日	山の自然学第36回講座(受講者独自の計画の自然保護活動)(自然保護)	各地
8月1～31日	山の自然学第37回講座(インタープリターの実施)(自然保護)	上高地
8月6～9月4日	フランス国立登山学校との交流(海外)	シャモニー・モンブラン
8月19～20日	きのこ山行調査(集会)	鐘山・博士山
8月23日	名誉会員を囲む会(総務)	本会
8月26日	90周年記念ブロック別(中部ブロック)式典(山梨、静岡、信濃、越後)	古名屋ホテル
8月27日	“山行(中部ブロック)	編笠山・仙丈岳
9月2日	ビールパーティー(集会)	本会
9月9日	山の自然学第46回講座(山の自然学入門講座)(自然保護)	蔵前工業会館
9月9日	90周年記念ブロック別(東北ブロック)式典(青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島)	ホテル東日本
9月10日	“山行(東北ブロック)	姫神山
9月21日	マカール登山報告会(高所)	本会
9月30～10月1日	撮影会(フィルムビデオ)	立山
9月30～10月1日	山の自然学第39回講座(現地講座)(自然保護)	木曾駒ヶ岳

5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	4,750,000	△4,750,000	(注)2
募金収入	0	43,029,500	△43,029,500	(注)3
寄付金収入計	0	47,779,500	△47,779,500	
6. 雑収入				
受取利息	3,000,000	1,211,761	1,788,239	
雑収入	500,000	629,772	△129,772	
雑収入計	3,500,000	1,841,533	1,658,467	
7. 特定預金取崩収入				
長期計画積立金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	64,720,000	132,014,840	△67,294,840	
前期繰越収支差額	16,121,040	16,121,040	0	
収入合計(B)	80,841,040	148,135,880	△67,294,840	

(注) 1. 「環境事業団環境基金」助成金¥4,950,000。マカロー登山隊1995に「スポーツ振興基金」助成金¥7,000,000。
 2. 上高地山岳研究所の水力発電工事に東京電力、中部電力、日本原子力発電3社寄付金。
 3. 90周年記念事業募金1994年5月～1996年3月。

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,630,000	10,355,264	274,736	
図書管理費	805,000	653,176	151,824	
調査研究費	2,075,000	7,098,698	△5,023,698	
指導費	965,000	1,023,098	△58,098	
支部関係費	4,200,000	3,636,626	563,374	
海外諸関係費	250,000	207,696	42,304	
山岳研究所運営費	3,400,000	3,726,694	△326,694	
海外登山補助費	2,000,000	1,000,000	1,000,000	
その他事業費	3,500,000	62,177,132	△58,677,132	
印刷・製本費	1,000,000	909,721	90,279	
通信運搬費	5,400,000	5,798,420	△398,420	
事業費計	34,225,000	96,586,525	△62,361,525	
2. 運営管理費				
給料・手当	13,000,000	12,592,800	407,200	
文具・消耗品費	250,000	259,251	△9,251	
印刷・製本費	3,000,000	3,031,505	△31,505	
旅費・交通費	1,800,000	1,104,490	695,510	
通信・運搬費	1,700,000	1,971,710	△271,710	
保険料	430,000	475,620	△45,620	
修繕費	200,000	272,199	△72,199	
租税公課	600,000	516,230	83,770	
光熱水料費	720,000	711,433	8,567	
電話料	450,000	405,718	44,282	
会議費	300,000	259,924	40,076	
什器備品費	200,000	86,124	113,876	
振替手数料	320,000	337,980	△17,980	
支部運営費	3,900,000	3,879,000	21,000	
福利厚生費	210,000	213,611	△3,611	
事務所管理費	803,000	887,952	△84,952	
その他管理費	2,550,000	2,674,809	△124,809	
負担金	135,000	135,000	0	
賃借料	3,600,000	3,600,000	0	
雑費	700,000	732,974	△32,974	
管理費計	34,868,000	34,148,330	719,670	
3. 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	

3月31日	山の自然学第45回講座(氷河からの植物の移動を現地で)(自然保護)	秋川
(B) 研究会・講演会		
7月7日	講演会「スキー力学のモデル」(科学)	本会
9月21日	第1回高所登山研究委員会(高所)	本会
3月19日	第2回高所登山研究委員会(高所)	本会
3月21日	講演会「運動と活性酸素」(医療)	本会
(C) シンポジウム		
6月9～10日	第15回日本登山医学シンポジウム(医療)	湘南国際村センター
12月2日	シンポジウム「最近の山岳通信の進歩」(科学)	青山学院
12月16日	日本山岳レスキュー協議会冬山登山シンポジウム(遭難対策)	オリンピックセンター

- 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
 - * 上高地山岳研究所の運用、資料室開設 5～10月
 - * 受入れ資料保管
 - * 各博物館、美術館との提携強化
 - * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存
- 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
- 自然保護活動の推進
 - * 自然保護指導者の養成
- 機関紙等の発行
 - * 「山岳」第90(1995)号の発行
 - * 会報「山」第599～610号の発行
- 国内および外国山岳団体との情報交換
 - * 国内関係団体(日山協、都岳連、HAT-J、その他)との密接な連絡
 - * 海外登山団体との機関紙の交換及び情報誌の購入
- 海外登山
 - * マッキンリー気象観測隊派遣
 - * ムスターグ・アタ山群6956m 峰登山隊派遣
- その他目的を達成するために必要な事業
 - * 山岳図書及び25,000分の1、200,000分の1地図整備
 - * その他目的を達成するために必要な事業を行う

収支計算書

平成7年4月1日から平成8年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	200,000	176,347	23,653	
2. 会費・入金収入				
入金収入	4,500,000	4,185,000	315,000	
復活会費収入	0	165,000	△165,000	
通常会費収入	46,000,000	49,326,000	△3,326,000	
終身会費収入	0	2,880,000	△2,880,000	
会費・入金収入計	50,500,000	56,556,000	△6,056,000	
3. 事業収入				
広告料収入	2,500,000	3,211,871	△711,871	
印税収入	20,000	49,669	△29,669	
刊行物売上収入	1,000,000	386,950	613,050	
その他事業収入	4,000,000	7,184,370	△3,184,370	
山研使用料収入	3,000,000	2,878,600	121,400	
事業収入計	10,520,000	13,711,460	△3,191,460	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	11,950,000	△11,950,000	(注)1

什器備品	5,778,232		
敷金	300,000		
図書出版研究基金	4,910,000		
長期計画積立金	27,550,000		
海外登山基金	89,110,000		
終身会費積立金	11,230,000		
退職給与引当預金	5,665,000		
その他固定資産合計	335,263,402		
固定資産合計		343,263,402	
資産合計			358,744,166
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	170,000		
預り金	975,220		
流動負債合計		1,145,220	
2. 固定負債			
退職給与引当金	5,665,000		
固定負債合計		5,665,000	
負債合計			6,810,220
[3] 正味財産の部			
正味財産			351,933,946
(うち基本金)			8,000,000
(当期正味財産減少額)			24,336
負債及び正味財産合計			358,744,166

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の131%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井信託銀行)	2,380,000	0	0	2,380,000
"(日本信託銀行)	420,000	0	0	420,000
"(中央信託銀行)	5,200,000	0	0	5,200,000
合計(基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高	備考
現金預金	1,991,100	9,093,245	
未収会費	3,569,000	3,483,000	
仮払金	11,800,000	0	
合計	17,360,100	12,576,245	
前受会費	151,000	170,000	
預り金	1,088,060	975,220	
合計	1,239,060	1,145,220	
次期繰越収支差額	16,121,040	11,431,025	

固定資産取得支出計	0	0	0
4. 特定預金支出			
図書出版研究基金支出	0	90,000	△ 90,000
長期計画積立金支出	3,000,000	3,000,000	0
終身会費積立金支出	0	2,880,000	△2,880,000
退職給与引当預金支出	0	0	0
特定預金支出計	3,000,000	5,970,000	△2,970,000
5. 予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	73,593,000	136,704,855	△63,111,855
当期収支差額(A)-(C)	△8,873,000	△4,690,015	△4,182,985
次期繰越収支差額(B)-(C)	7,248,040	11,431,025	△4,182,985

正味財産増減計算書

平成7年3月31日～8年3月31日

科目	金額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
図書出版研究基金	90,000		
長期計画積立金	3,000,000		
終身会費積立金	2,880,000		
退職給与引当預金	0	5,970,000	
増加額合計			5,970,000
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
当期収支差額	4,690,015		
什器・備品	307,000		
長期計画積立金	0		
棚卸資産	997,321	5,994,336	
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額		0	
減少額合計			5,994,336
当期正味財産減少額			24,336
前期繰越正味財産額			351,958,282
期末正味財産合計額			351,933,946

貸借対照表

平成8年3月31日現在

科目	金額		
[1] 資産の部			
1. 流動資産			
現金	128,352		
振替貯金	1,300,991		
普通預金	7,663,902		
未収会費	3,483,000		
棚卸資産	2,904,519		
流動資産合計		15,480,764	
2. 固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他固定資産			
土地	46,297,170		
建物	144,423,000		

流動負債合計		1,145,220
2.固定負債		
退職給与引当金	5,665,000	
固定負債合計		5,665,000
負債合計		6,810,220
正味財産		351,933,946

注1) 棚卸資産内訳

種類	摘 要	金額
刊行物	山岳総索引、山岳覆刻版等	996,335
服飾品・その他	クラブタイ、タイ止等	1,908,184
合 計		2,904,519

注2) その他固定資産内訳

1 建物及び土地

A 事務所及び図書室	金額
場所 東京都千代田区四番町5番4	
構造 鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建	
(事務所)区分所有建物1階部分 103.32㎡	
宅地持分 1,124.56㎡×339/10,000 = 38,122584㎡	
(図書室) 区分所有建物1階部分 55.22㎡	
宅地持分 1,124.56㎡×176/10,000 = 19,792256㎡	
計 158.54㎡ 宅地持分 57.91484㎡	72,720,170
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村4469番地1	
構造 鉄筋コンクリート造(一部木造)1棟 274.09㎡	118,000,000
合 計	190,720,170

2 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	所 在
書庫内移動書架一式コンパクト	53. 2. 10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル(木製2台)	53. 9. 28	250,000	図書室
ライティングビューロー(木製)	54. 6. 23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット(スチール製品)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器(木製3段)	56. 9. 12	200,000	"
書 棚(木製2段)	56. 12. 22	500,000	"
16mm映写機16-CL(MO)	61. 5. 13	156,000	"
木製書架ガラス戸付(2台)	62. 9. 24	700,000	"
シャープ液晶ビジョン一式	2. 7. 19	587,932	事務所
世界対応VTR 001 NWV	4. 5. 11	250,000	"
小型気象ファクシミリ JAX-9	4. 10. 19	320,000	"
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	5. 3. 20	250,000	山 研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	5. 3. 20	280,000	"
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S	5. 3. 20	250,000	"
合 計		5,778,232	

財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈益)

1. 絵画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載、保管場所
白 馬 岳	油 - A 50	中村清太郎	大町山岳博物館
富 士 山 麓	油 - A 25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形 6	中村清太郎	本 会

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	144,423,000	0	144,423,000
什 器 備 品	5,778,232	0	5,778,232
合 計	150,201,232	0	150,201,232

財 産 目 録

平成8年3月31日

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1.流 動 資 産		
現金預金		
現金 現金手許有高	128,352	
振替貯金		
東京地方貯金局	1,300,991	
普通預金		
あさひ銀行市ヶ谷支店	5,797,250	
三菱銀行市ヶ谷支店	1,853,444	
中央信託銀行本店	928	
三井信託銀行新宿西口支店	648	
日本信託銀行本店	11,632	
未収会費 370名分	3,483,000	
棚卸資産(注1)	2,904,519	
流動資産合計		15,480,764
2.固 定 資 産		
(1)基本財産		
貸付信託		
三井信託銀行本店	2,380,000	
日本信託銀行本店	420,000	
中央信託銀行本店	5,200,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2)その他固定資産(注2)		
土 地 57.91484㎡	46,297,170	
建 物 432.63㎡	144,423,000	
什器・備品	5,778,232	
敷 金	300,000	
図書出版研究基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	4,910,000	
長期計画積立金(定期預金・三菱市ヶ谷)	27,550,000	
海外登山基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	89,110,000	
終身会費積立金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	11,230,000	
退職給与引当預金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	5,665,000	
その他固定資産合計	335,263,402	
固定資産合計		343,263,402
資産合計		358,744,166
[2] 負債の部		
1.流 動 負 債		
前受会費 21名分	170,000	
預り金 職員に対する源泉所得税その他	975,220	

社団法人日本山岳会平成8年度事業計画(案)

(8.4.1~9.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

(A) 集会

- *新入会員歓迎さくらハイク(集会) 陣馬山 4月14日
- *鳥海山イヌワシ調査(自然保護) 4月
- *冬季シベリア・ポベータ峰登山報告会(青年) 4月3日
- *谷川岳山岳スキー研修会(指導) 4月13~15日
- *酸性雨調査(自然保護) 4月~3月
- *山の自然学講座現地10回(自然保護) 4月~3月
- * " 都内10回(自然保護) 4月~3月
- *ネパール石楠花植林(自然保護) 4月~3月
- *第3回古道を歩く(図書) 5月
- *雪上総合技術研修会(指導) 鍋岳 5月3~6日
- *第20回若葉会山行調査(集会) 5月11~12日
- *支部長会議(総務) グリーンホテル水道橋 5月18日
- *通常総会(総務) グリーンホテル水道橋 5月18日
- *第20回若葉会山行(集会) 金城山・浅草岳 5月25~26日
- *木曾駒ヶ岳気象観測(自然保護) 木曾駒ヶ岳 5月~2月
- *フリークライミング集会(スポーツクライミング)(学生) 東京近郊 6月
- *若葉会山行写真交換会(集会) 6月
- *小川山集会(学生、指導) 6月
- *探索山行(科学) 菅平 6月
- *マッキンリー気象観測隊、観測機器保守点検(科学) 6月
- *白山山地調査(自然保護) 6月
- *第50回ウエストン祭(信濃支部) 上高地 6月2日
- *谷川岳合宿(青年) 6月上旬
- *名誉会員を囲む会(総務) 7月
- *沢登り講習会(指導) 7月上旬
- *大学山岳部監督会議(青年) 7月中旬
- *カナダ山岳会との合同登山(海外) 7月~8月
- *写真及びビデオ撮影会(フィルムビデオ) 8月7日
- *上高地自然インタープリター(自然保護) 8月1~31日
- *自然観察会(自然保護) 9月
- *映写会(フィルムビデオ) 9月2日
- *東海支部ウルタル峰登山報告(青年、高所) 9月4日
- *ビールパーティー(集会) 9月7日
- *山岳遭難救助技術研修会(遭難対策)(指導) 文部省登山研修所 9月中旬
- *第4回山を語る(図書) 10月
- *イベント(集会) 10月
- *鳥海山イヌワシ調査(自然保護) 10月
- *自然保護全国集会(自然保護) 10月
- *立正大学チョモランマ峰登山報告(青年) 10月2日
- *小川山岩登り研修会(青年、指導) 10月上旬
- *岩登り研修会(指導) 文部省登山研修所 10月中旬
- *新入会員オリエンテーション(総務) 10月26日
- *マラソン大会(学生) 皇居外苑 11月
- *青年部K2峰登山報告会(青年、高所) 11月6日
- *富士山雪上総合技術研修会(指導) 11月下旬
- *展覧会(フォトビデオ) 12月
- *支部長会議(総務) 新高輪プリンスホテル 12月7日
- *年次晩餐会(総務) 新高輪プリンスホテル 12月7日
- *年次晩餐会後の懇親山行(集会) 12月8日
- *青年部OB懇談会(青年) 12月上旬
- *冬山雪崩対策研修会(遭難対策) 谷川岳 1月上旬
- *スキー懇親会(集会) 1月10~12日
- *アイスクライミング講習会(青年、指導、学生) 八ヶ岳 2月上旬
- *若年対策冬山山行(青年) 2月上旬
- *支部事務局担当者会議(総務) 2月上旬

群 猿	墨 絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
鳥(カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング		本 会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シネライキ	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	本 会
涸沢より北穂高	水彩 - 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	本 会
北穂高滝谷	油 - 25	足立源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	本 会
北穂高主峰	油 - 25	足立源一郎	本 会
槍ヶ岳	油 - P 8	足立源一郎	本 会
タンボチエの僧院	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シエルパニの親子	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油 - 12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画 - 8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩 - 10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画 - 8	鈴木 正俊	本 会
ナムチャバルワ峰暮色	油 - 10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 晚霞	本 会
上高地秋景	油 - F 20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャブチャレ	油 - 20	武井 清	本 会
朝霧	水彩 - 8	越智 英夫	本 会
白禪の林	油 - 6	茨木猪之吉	本 会
麓春	油 - P 50	倉員辰雄	本 会
ヒマラヤダーズリンにて	油 - F 4	上野 春香	伯耆国山岳美術館

*他の絵画、写真 省略

2. 図書

種類	摘 要	冊 数
和 書	平成7年度 受入冊数 160冊	8984冊
洋 書	平成7年度 受入冊数 43冊	3213冊

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点 「マナスルに立つ」他
ビデオ	131本

監 査 報 告

社団法人日本山岳会平成7年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成8年4月10日

社団法人 日本山岳会 監事 川崎 巖
監事 石橋 正美

4.補助金等収入			
補助金収入	0	0	0
5.寄付金収入			
寄付金収入	0	0	0
6.雑収入			
受取利息	700,000	3,000,000	△2,300,000
雑収入	500,000	500,000	0
雑収入計	1,200,000	3,500,000	△2,300,000
7.特定預金取崩収入	0	0	0
当期収入合計(A)	77,720,000	64,720,000	13,000,000
前期繰越収支差額	11,431,025	16,121,040	△4,690,035
収入合計(B)	89,151,025	80,841,040	8,309,985

科 目	平成8年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
II支出の部				
1.事業費				
出版費	11,402,000	10,630,000	772,000	
図書管理費	800,000	805,000	△ 5,000	
調査研究費	2,725,000	2,075,000	650,000	
指導費	1,150,000	965,000	185,000	
支部関係費	10,950,000	4,200,000	6,750,000	
海外諸関係費	250,000	250,000	0	
山岳研究所運営費	3,500,000	3,400,000	100,000	
海外登山補助費	1,000,000	2,000,000	△1,000,000	
その他事業費	4,800,000	3,500,000	1,300,000	
印刷・製本費	1,500,000	1,000,000	500,000	
通信運搬費	5,000,000	5,400,000	△ 400,000	
事業費計	43,077,000	34,225,000	8,852,000	
2.運営管理費				
給料・手当	13,300,000	13,000,000	300,000	
文具・消耗品費	250,000	250,000	0	
印刷・製本費	1,700,000	3,000,000	△1,300,000	
旅費・交通費	1,500,000	1,800,000	△ 300,000	
通信・運搬費	2,000,000	1,700,000	300,000	
保険料	200,000	430,000	△ 230,000	
修繕費	300,000	200,000	100,000	
租 税 公 課	650,000	600,000	50,000	
光熱水料費	750,000	720,000	30,000	
電話料	450,000	450,000	0	
会議費	300,000	300,000	0	
什器備品費	600,000	200,000	400,000	
振替手数料	605,000	320,000	285,000	
支部運営費		3,900,000		
福利厚生費	220,000	210,000	10,000	
事務所管理費	750,000	803,000	△ 53,000	
その他管理費	2,700,000	2,550,000	150,000	
負担金	135,000	135,000	0	
賃借料	3,900,000	3,600,000	300,000	
雑費	1,000,000	700,000	300,000	
管理費計	31,310,000	34,868,000	△3,558,000	
3.固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出計	0	0	0	
4.特定預金支出				
長期計画積立金支出	3,000,000	3,000,000	0	
退職給与引当預金支出	1,000,000	0	1,000,000	
特定預金支出計	4,000,000	3,000,000	1,000,000	
5.予備費				
予備費	1,500,000	1,500,000	0	
当期支出合計(C)	79,887,000	73,593,000	6,294,000	
当期支出差額(A)-(C)	△2,167,000	△8,873,000	6,706,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	9,264,025	7,248,040	2,015,985	

グリーンホテル水道橋 2月22～23日

- *山スキー研修会(指導) 文部省登山研修所 3月中旬
- *新入会員オリエンテーション(総務) 3月15日
- *第24回図書交換(図書) 未定
- *第25回山岳史懇談会(図書) 未定
- *第28回山岳図書を語る(図書) 未定
- (B)研究会
- *データバンク研究会(資料)
- *第1回高所登山研究委員会(K2登山のタクティス)(高所) 5月
- *第2回高所登山研究委員会(高所登山と低体温症)(高所) 11月
- *冬山事故対策研究会(遭難対策) 12月中旬
- *海外登山について(各国の動き)(青年) 1月中旬
- *中高年登山対策(青年) 3月上旬
- (C)講演会、シンポジウム
- *カジタビッケル、アイゼン講演会(集会) 7月9日
- *第16回日本登山医学シンポジウム(医療) 6月7～8日
- *講演会(南極観測と地球環境)(科学) 7月
- *講演会(日本の山の植林)(科学) 10月
- *講演会(登山靴の科学的検討)(科学) 9月1日
- 2.登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
- *上高地山岳研究所の運用、資料室開設 5～10月
- *受入れ資料保管
- *各博物館、美術館との提携強化
- *海外遠征の記録、会合、行事等の記録的フィルムのビデオテープ化による保存
- 3.山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
- 4.自然保護活動の推進
- *自然保護活動のミニコミ誌発行
- *山の自然保護指導者の養成
- 5.機関紙等の発行
- *「山岳」第91(1996)号の発行
- *会報「山」第611～622号の発行
- 6.国内および外国山岳団体との情報交換
- *国内関係団体(日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本勤労者山岳連盟、HAT-J、日本ヒマラヤ協会、その他)との連絡
- *海外登山団体との機関紙の交換および情報誌の購入
- 7.海外登山
- *K2、峰登山隊1996派遣
- 8.その他目的を達成するために必要な事業
- *山岳図書の整備
- *その他目的を達成するために必要な事業を行う

収支予算書(案)

平成8年4月1日から平成9年3月31日まで

科 目	平成8年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
I 収入の部				
1.基本財産運用収入				
基本財産利息収入	200,000	200,000	0	
2.会費・入金収入				
入金収入	5,000,000	4,500,000	500,000	
通常会費収入	63,600,000	46,000,000	17,600,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入金収入計	68,600,000	50,500,000	18,100,000	
3.事業収入				
広告料収入	1,500,000	2,500,000	△1,000,000	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物売上収入	200,000	1,000,000	△ 800,000	
その他事業収入	3,000,000	4,000,000	△1,000,000	
山岳研究所使用料収入	3,000,000	3,000,000	0	
事業収入計	7,720,000	10,520,000	△2,800,000	

2. 紹介者のうち1名は、原則として本会役員、評議員、支部長、またはこれらの経験者であることを必要とする。
3. 本会は新たに入会する者に対し、入会に関する所定の手続きの完了と同時に会員章および略章を交付する。但し紛失等の理由により会員に対し再交付する場合は実費を徴収するものとする。
- 第13条 会員は本会が開催する総会、小集会、年次晩餐会等その他重要な行事にはなるべく会員章または略章を着用して出席するものとする。
- 第14条 死亡以外の理由によって会員たる資格を失った場合はただちに会員章、略章を本会に返付するものとする。
- 第15条 主事、書記等の職員は、理事会が定めた職務規定、経理規定、その他の諸規定および本会運営に関する内規等に基づき担当理事の指示に従い、本会の運営に関する日常の事項および会計事務を処理するものとする。
- 第16条 会員は会務に必要な場合を除き、会の重要な備品を使用したり、あるいは持ち出してはならない。
- 第17条 会員および会員以外の者が本会施設に来訪する場合は、到着と共に備付けの名簿にその氏名を記入しなければならない。
- 第18条 理事会の許可を得ないで本会内で次の行為をしてはならない。
1. 掲示、広告、展示等 2. 集会、商行為等
- 第19条 本会は特別の事情ある場合、会員から寄付金を募集することができる。
- 第20条 定款第5条による支部の規定は、支部ごとに定め、理事会の承認を得るものとする。
- 第21条 本会の休室日は、年末年始1週間(12月29日～1月5日)、夏期8月15日を中心とする1週間および、日曜・祝祭日ならびに本会の創立記念日(10月14日)とする。但し、創立記念日が日曜日にあたる場合は、その翌日を創立記念日として休室する。
- 第22条 本会の開室、閉室時間を次の通り定める。
- 毎週、月、火、木、土曜日は午前10時より午後8時迄とし、水、金曜日は午後1時より8時迄とする。
- 付 則 この細則の改廃は予め評議員会の意見を聞き、理事会および総会の議決によって定めるものとする。

細則改定(案)

- 第11条 支部所属会員が当年度会費をその年度内に納付した場合は、当該会費のうち支部運営費として1人当たり2500円を支部に助成する。但し終身会費を納付した場合は当該納付終身会費の10%とする。
- 第12条 1. 本会に入会を希望する者は、入会後満2年以上を経た会員2名の紹介を必要とする。
2. 紹介者のうち1名は、原則として本会役員、評議員、支部長、またはこれらの経験者であることを必要とする。
3. 本会は新たに入会する者に対し、入会に関する所定の手続きの完了と同時に、会員章および略章を交付する。但し紛失等の理由により会員に対し再交付する場合は、実費を徴収するものとする。
4. 26歳未満の入会者については入会金を免除する。

定款について

第6条 本会の会員は、次の通りとする。

1. 通常会員 本会の目的に賛同し、本会の定める入会金20,000円および下記の年会費を納める個人または団体。 12,000円
但し、婚姻関係にある者が共に通常会員の場合に限り、申出により、いずれか1名の年会費を減額し、下記の通りとする。 8,000円

尚満25歳以下の入会者に限り入会金を免除する。

上記 ---- 線部分の文言は文部大臣の認可がおりなかったために削除する。

社団法人日本山岳会細則

昭和47年11月11日 制定
昭和61年5月16日一部改定
平成3年5月18日 改定
平成7年5月20日 改定

- 第1条 この細則は定款第4・9条に基づき本会運営上に必要な事項を定める。
- 第2条 本会業務処理のため、理事会の議を経て、会務運営的な委員会と、実践研究的な委員会をおくことができる。
- 第3条 委員会の構成については次の通りとする。
1. 委員会担当理事は会長が委嘱する。
2. 各委員会の委員は原則として、入会後満2年以上を経た会員のうちから、担当理事が推薦し、会長が委嘱する。
3. 委員の定数は20名程度までとする。
4. 委員会運営のため、担当理事は委員長や若干名の常任委員を選出することができる。
- 第4条 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。但し委員の任期は原則として再任迄とする。
- 第5条 委員会における重要な決議事項および予算外の支出を必要とする事項は、理事会の承認を経なければならない。
- 第6条 委員会担当理事は、その担当事項に関する翌年度の予算を毎年1月末迄に理事会に提出しなければならない。
- 第7条 定款第14条による理事および監事の選挙は、その候補者を評議員会が推薦するものとする。
- 第8条 定款第14条による会長および副会長の選挙は、その候補者を評議員会が推薦するものとする。
- 第9条 役員および評議員はすべて無報酬とする。但し職務のために要した実費は支給を受けることができる。
- 第10条 会費の納入は原則として毎年4月に本会から送付される請求書に基づき納付するものとする。
- 第11条 支部所属会員が当年度会費をその年度内に納付した場合は、当該会費のうち支部運営費として1人当たり1500円を支部に還付する。但し終身会費を納付した場合は当該納付終身会費の10%とする。
- 第12条 1. 本会に入会を希望する者は、入会後満2年以上を経た会員2名の紹介を必要とする。

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況を
レポートします。

北海道支部 南日高・楽古岳山行

本年度の初山行は五月十八〜十九日、南日高・楽古岳のメナシユンベツ川コースで十六名が参加して行われた。

五月に、道東に季節外れの大雪をもたらした低温続きもやっと回復に向かい、晴れ晴れと、札幌組は合同庁舎前を四台の車で出発した。

メナシユンベツ川右岸のコイボクシユンベツ沢出合に真新しいログハウス調の新築古山荘が十勝岳を背景に建っていた。早速水汲みに散り、枯れ木を集めて、鋳物の上品なストープに焚きつけた頃、函館からの二人が到着した。採ってきたアイヌネギを山盛りにしたジンギスカン鍋を

囲む宴は、深雪山スキー術の話に盛り上がる。

翌十九日朝、上流の谷はダークグレーに閉ざされていた。小屋掃除をすませて午前六時に出発する。

最初の渡渉は長い丸木渡り、眠気が覚めずに尻込みする場面も出る。

三〜四回、飛び石伝いの渡渉を繰り返して上二股に着く。

尾根取りつきの上二股からは、標高差千メートル近い急登になる。薄日も射し始め、ジグザグの登りも

ピッチが上がる。ヒメイチゲ、サクラソウ、オクエゾサイシンに次いで

踏んでしまいたいようになるほど足元近くまでカタクリの花が咲き続いている。

雪尾根になり、トップのキックステップに沿って足を運ぶ。岳樺が低

くなりハイマツが顔を出す一〇〇メートル付近で三度目の小休をとる。

一三〜七メートルの肩から右上がり

に弧を描いて、楽古岳の頂上は高い背後に雲海が寄せ、雲表を行く気分

は爽快である。

肩に出ると眼前に十勝岳がボリュームある山容で迫る。狭くなった雪

稜を山頂へと登ると、氷雪をビッシリ着けた棒杭を迎えられた。午前十

時、嬉々として皆の顔が登ってくる。快晴の山頂では、雲海が国境稜線

上で心憎い演出を見せてくれる。昼

寝に、スケッチにと一時間は早い。

十一時過ぎ下山、ズボズボ膝上までぬかる雪の急斜面をどんどん下り、

山荘には十三時四十分に着いた。

中村リーダーの「素晴らしい日高の山々に免じて不行き届きはご容赦を

また七月に会いましょう」の挨拶に拍手で応え、現地解散した。

(佐々木松男)

熊本支部

平成八年度支部総会報告

平成八年度支部総会が四月二十一日、NTT熊本会館で開催された。

総会には、会員四十二名(委任も含む)が出席し、平成八年度事業計画、役員改選について審議した。

また、総会では時間切れで審議未了となり、次期委員会付託となった

事業について、六月二日、熊本市国際交流会館で支部委員会を開催、以下の通り決定した。

◆事業計画

・八月二十五日||夏季例会(熊本厚生年金会館)

・十月十九〜二十日||秋季例会(九重・黒岳)

・一月十一日||新年晚餐会

・三月十五〜十六日||春季例会(千支の山・牛ノ峠)

◆役員改選

支部長 本田誠也(留)

副支部長 工藤文昭(新)
神谷平吉(新)

常務委員 田上敏行(留)

委員 河上洋子(留) 広永峻一(新)
広吉 功(留) 丸尾龍一(新)

監事 中村恵二(新)

また平成九年に支部設立四十周年を迎えるので、その準備のため、支部設立四十周年特別委員会を設け、現役員に以下の委員を加えて、その任に当たることとなった。

委員 西沢健一 和仁古昇
門脇愛子 馬場博行

(田上敏行)

福岡支部

支部長・副支部長の交替

四月十三日に開催した平成八年度福岡支部総会において、支部長、副支部長が次のように交替しましたので、ご報告します。

・支部長 松本徳夫(会員番号四六〇七)

・副支部長 深田泰三(会員番号八一三六)

・事務局 千八一〇 福岡市中央区
港二一五―三三―サン

ポートハイツ九〇二 深
田泰三方 TEL・〇九二―

七八一―四七七一

東西南北

谷川岳のオオカミ

齋藤 晋

本誌五九四、六〇九と六一一号に魚沼山域やその周辺のオオカミについての報告があり、興味深く読ませていただいた。というのは、私自身にも魚沼山塊から遠くないところでオオカミかな、と思った体験があるからである。

一九五九(昭和三十四)年八月十一日、土合から入って谷川岳のマチガ沢と旧道とが出合う地点にテントを張った。夜も九時すぎころ、北のほうに遠吠えを聞いた。ウオウオウオーンと、後ろの部分を伸ばす声で、犬とは違うと思った。少したつて、遠吠えの方向(一の倉)から足音が近づいてきた。それは、フッフッフという息をさせながらテントを一回りした。そして、さっきの方向へと足音は去っていった。

テントの中で私と仲間、それが入ってきたらとハンマーを片手に構えていた。ながい、恐怖の一刻であ

った。翌日は朝から雨が降りだし、一の倉へ入る予定であったが、そのまま帰ってきた。

当時、山岳部員だった私は、生物学の専攻で、今もそうだが、オオカミがすでにいなくなっている、ということを知っていた。しかし、あの迫力ある遠吠えといい、あの鼻息といい、犬とは違うと思えた。犬ではないとすると、オオカミの可能性がたかく、オオカミかもしれないと考えられてくる。

明治の終りころ絶滅したといっても、いないという証拠は理論的にはない。したがって、オオカミは生き残っているかもしれない。『北越雪譜』の世界のような存在ではなく、密かに息をしているのだろうか。

真っ白なミヤマキリシマ

宮崎支部・井野元 繁

■原生林に歓喜

朝、霧島盆地は乳白色の霧に包まれていた。しかし、願いが天に通じ

たのか時間の経過とともに梅雨前線は太平洋上に去って、つかの間の青い空が広がる。高い湿度は山の冷気と交替し、車の窓を開けると初夏の風が山の匂いを運んでくれる。一行十二人は、予定より三十分遅れて高千穂河原に到着。駐車場はところ狭しと車があふれ、ミヤマキリシマの観賞や登山に訪れた人々の波は高千穂峰と中岳の二本のルートに連珠のようである。

十時三十分中岳に向かって登山開始。初参加の仲間歩調を合わせながら、花見客の合間を縫って徐々に高度を上げる。中岳全山に咲き誇るミヤマキリシマの花が優しく微笑みかけてくれる。ウグイス、カッコウ、ホトトギスの鳴き声が裾野の谷間から追い上げてくる。三十分ピッチ。小憩すると急登にさしかかる。それぞれに違った呼吸に乱れが始まる。心肺機能はフル回転を続けているが体調は良好、歩調はリズムカルで変化はない。

登山道には、土砂の流出を防ぐ土止め、板の階段などの工事が施され、工夫がなされた登山道作りにも人と自然の調和の気配りがなされており好評のようだ。やがて山頂到着(十一時三十分)。満足・歓喜・充実の笑顔がこぼれ、談笑のメリハリがよい。このように期待に込めてくれる

有形無形の山の贈物に感謝したい。

照りつける太陽は容赦なく体の水分を汗として自然に返していく。今年の山頂のミヤマキリシマは四分咲きで花に少し勢いが足りない。それに比べ人々が花盛りのため、昼食は下山途中でゆったり気分と意見が一致する。新燃岳分岐点を右折し、喧騒を避けて山麓上部の灌木の緑陰を探して車座を作り愛妻弁当を開く。周囲はちょっと高めミヤマキリシマのほかミズナラ、カエデ、ヤマボウシの群落、その中でビールで喉を鳴らしながら無心に空腹を満たす。腹の虫が落ち着いてくると笑い声が交差し始める楽しいひととき。灌木を揺らしながら通り過ぎていく風は疲れを運び去ってくれる。

カッコウの鳴き声に促され、三十分の昼食を終えて出発(十二時四十五分)。少ない高度差でも確実に灌木の幹周りと枝は広がりを見せ樹高は高くなる。赤松、野茱萸(ノグミ)、九葉カエデが混在し始め、次の世代を担う低木が成長を待ちわびている。広い樹下の空間が見通しもよく、流れる風は素晴らしいの一語に尽きる。

■中岳の貴公子

かつては、真っ白なミヤマキリシマが咲いていたという言葉を信じて歩き続けていたところ、先頭グループが発見した。白花のミヤマキリシ

マに出合ったのだ。花は数個開花していて貴公子然としている。続いて程よい距離に朱色のミヤマキリシマの女王が満開に咲き、その存在をアピールしている。歓喜にはころぶ参加者の表情は何ともいえぬ満足感に満ちあふれている。その姿をカメラに納めながら感動の余韻にひたつたやがて枯れた谷川に着く(十三時四十分)。小憩ののち二つの小さな谷を越えると、皇子原コースに合流する(十四時十分)。分岐点には「高千穂河原まで一・五キロ」の表示板が灌木に吊してあり、方向を示してくれているのはありがたい。

樹林帯は続く。自然の造形は何をもっても代え難い。夏菜莢は青い実をつけ、秋菜莢は白い花を満開にして共生しながらその姿を競うかのような。急に視界が広がる。この中岳でミヤマキリシマ群落の最高の場所だ。杉林を右手に見ながら高千穂河原に着く(十四時四十分)。行程四時間。あれほど混雑していた駐車場は潮が引いた磯辺を思わせる。

若者が一列縦隊で重いキスリングを背負い粛々と下山してきた。見れば宮崎県高校総合体育大会の山岳競技に参加した高校生集団である。この若者たちが自然保護の灯火を護り続けてくれることを期待して帰路について。

海外の山

旧ソ連・高峰の帰属とアルピニズム

江本嘉伸

一次登頂者。八九年には二十四人の登攀メンバーが「西」「主」「中央」「南」の八千メートルのピークを延べ「八五登」したことで世界を驚愕させたカンチエンジュンガ縦走隊の隊長を務めた人である。

ムイスロフスキーは九一年十一月、

今回の来日で日本の山々に登り、自然を見るだけでなく、HATJJ 総会、日本山岳会懇談会、日本山岳協会海外委員会総会などに顔を出す機会があり、旧ソ連圏の登山事情について直接話をもらう時間を持てたのは、何よりだった。

ロシアの大統領選は結局「決選投票」に持ち込まれ、七月三日、世界がその開票結果に注目した。結果は「エリツィン再選」となったが、これですぐロシア人の暮らしがよくなるわけでは全くない。

東京と富山で開かれた「国際山岳環境会議」、九二年十月、松本市で開催された国際山岳連盟総会にも参加している。ただ、もっぱら英語中心で進行しがちな言葉の問題もあって、大転換が進む旧ソ連からのせつかくの参加というのに彼の発言の機会意外に少なく、エルゾグ、ヒラリ、ポニントン、メスナーといった

彼の言いたいことを要約すると、ソ連の解体により、高峰を持つ国と持たない国ができた。それは地理的なことで仕方がないが、問題はソ連が長い時間をかけて作り上げた登山のトレーニンング・システム、グレードの認定などを何とか、維持できないか、という点だ。

モスクワでは二か所の仕事をかけもちでやっても暮らしては楽にならないそう。インテリはとくにひどい状態だ。知識は今のロシアでは一文にもならないし、高い技術を持っている者も、工場が作動しないのでスクラップ集めでもやるしかない。

「大御所」にもつばら気を遣う日本の山岳関係者もそのことをさして気にとめなかったように思う。

解体した旧ソ連の登山界はどうなっただろうか。これからどうなるか。八〇年代末から九〇年代にかけての「地政学地図大転換」が、登山の世界にも大きな影響を投げかけていることを考慮すれば、本当はムイスロフスキーのよ

エベレストやカンチで実証された旧ソ連の登山家の抜群の強さは、厳しいトレーニンング方法とグレード認定システムによるところが多い。そのよい面を各共和国共通のものとして維持し、アルピニズムの発展を図りたい、というのである。

かつてソ連山岳連盟の会長を務め、現在「ユーラシア登山クライミング協会」の会長である大学教授、エドゥワルド・ムイスロフスキー(五九)が五月末、三度目の来日をした。超多忙な彼を説得して「少し緑の中で休んでくれ」と来てもらったのだが、日本山岳協会の招きの形をとらせてもらった。

籍ではあるが、民族的にはウクライナ人であることを考えればなおさら、その発言は興味深かったはずである。

「ユーラシア登山クライミング協会」はこうして発足したが、財政問題などで円滑な活動はまだまだだ。私たちが「山がそこにあるから」と、単に高峰のある国に駆け寄るのではなく、十年、二十年先を見すえ

新ルートを拓いて登ったソ連隊の第

一九八二年、エベレスト南西壁を

書籍受入報告 (1996年5月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版年	出版年	寄贈/購入
G. Merzbacher	Aus den Hochregionen des Kaukasus(Band 1)	957pp/25cm	Duncker & Humblot 1901		今西武奈太郎氏寄贈
G. Merzbacher	Aus den Hochregionen des Kaukasus(Band 2)	963pp/25cm	Duncker & Humblot 1901		今西武奈太郎氏寄贈
Moriz von Dechy	Kaukasus[Drei Banden](Band 1)	348pp/31cm	Dietrich Reimer 1905		今西武奈太郎氏寄贈
Moriz von Dechy	Kaukasus[Drei Banden](Band 2)	396pp/31cm	Dietrich Reimer 1906		今西武奈太郎氏寄贈
Moriz von Dechy	Kaukasus[Drei Banden](Band 3)	410pp/31cm	Dietrich Reimer 1907		今西武奈太郎氏寄贈
日本山岳会(編)	会報「山」合本(No.1~No.600)計13冊分	27cm	日本山岳会		望月達夫氏寄贈
日本山岳会(編)	山日記の葉・合本(1953年~1968, 69年合併版)	16cm	茗溪堂		望月達夫氏寄贈
市河三喜	私の博物誌(随筆集)	217pp/17cm	中央公論社	1956	望月達夫氏寄贈
田中司(編)	モンゴル・ボグド山:乗馬の旅1994(立教グループ)	75pp/19cm	田中司(私家版)	1995	編者寄贈
田中司	キャンプをつくる(シリーズ・子どもとつくるNo.29)	74pp/21cm	大月書店	1992	著者寄贈
沖允人	インドの山と街(訂正2刷版)	262pp/21cm	沖允人(私家版)	1996	著者寄贈
沖允人(編)	サラ・シュワ初登頂:足利工業大学山岳部・OB会(1995年8月)	130pp/30cm	足利工業大学山岳部	1995	編者寄贈

味の技、心でつくる



むさし坊 H比谷店
(東宝ツインタワービル9F)
千代田区有楽町1-5-2 ☎03-3504-1905
むさし坊 麹町店
(有楽町線麹町駅)
千代田区麹町4-2-6 ☎03-3230-2313
むさし坊 神田西口店
(神田西口通り商店街)
千代田区内神田2-9-9 ☎03-3252-5015
友誼ゆうぜん
(半蔵門線半蔵門駅3分)
千代田区平河町1-3-12 ☎03-3288-5891

むさし坊 番町店 (日本TV通り五番町交差点角)
千代田区六番町4 ☎03-3234-3357



私はパテントを持つスイスのプロ山岳ガイド及びスキー教師です。有名なヨーロッパアルプスの山々に一緒に登り、その歴史ある登山文化をあなたにお見せしましょう。あなたの能力と要求に応じた山行きをアレンジします。料金は一日当りsFr.350.から、言葉は英・仏・独です。

ベアート・フートマッハー(Beat Hutmacher)にご連絡を。
Chalet Enzian, CH - 3707 Darligèn / Interlaken. Telefax: 0041-36 23 20 71

会務報告

五月理事会

日時 五月九日(木) 十八時四十分～
二十時四十分

場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕 村木会長、中村、宮下各副会長、吉永、中川、大谷、伊藤、水野、南井、堀井、渡邊、溝口、田邊、宇田川、熊崎、大蔵各理事、川崎、石橋各監事、小倉常任評議員
〔委任〕 斎藤副会長、大屋、松浦、山本各理事、大倉、村井、大森、神崎、重廣各常任評議員

【審議事項】

- (一) 上高地ウエストン祭 感謝状の件 小倉常任評議員
平成八年六月一日(土)～二日(日)第十五回開催に当たり、長年お世話になった地元関係者を含む方々(団体)に本会長名での感謝状贈呈の要請が田中信濃支部長からなされた。承認
- (二) 日本山岳会指導者賠償責任保険の件 中川
リーダー保険として五年間継続してきたが、前回の百八十名を各支部長を含む百名の登録として引き続き契約していく。承認
- (三) 日本山岳会の団体傷害保険の件

中川
四月三十日現在の加入状況は、首都圏二百二十五名、各支部百九十二名計四百七十七名だが、いまだに申し込みが続いており、早期に五百名を超えて、保険料の二十パーセント割引にもっていききたい。来期はさらに増加が見込まれる。

四 図書室の整理と一〇四号室の件 中川

前回に引き続き①書庫内の図書以外のロッカー二個を一〇四号室に移す。②図書以外の資料を整理しながら資料委員会で一〇四号室に移す。③購入文庫の重複本についても検討していく。 継続審議

五 図書室・書庫の「山岳」バックナンバー在庫整理の件 水野

内容を会報「山」に掲載の上、八月末まで受け付けて会員特別割引額布として処理していく。承認

六 三国合同遠征隊(チョモランマ)報告書在庫整理の件 中川

英語・中国語・日本語版があるが、英語版・中国語版については、海外連絡委員会に対処し、日本語版については会員割引額布で進めていく。承認

七 同好会「丹水会」承認申請の件 中川

丹水会代表幹事・古谷聖司(会員番号七五一〇)、事務所・海老名市

古谷方より登録申請がなされた。承認
八 青森ウエストン祭出席依頼の件 中川

五月二十六日(日)八時より第五回青森ウエストン祭開催に当たり本会への出席要請がW・ウエストン友の会戸來彌会長よりなされ、大森常任評議員が出席する。承認

【報告事項】

評議員会報告 小倉常任評議員

①総会提出議案についての審議で吉永財務担当理事、中川総務担当理事より説明がなされ、承認された。

②松田評議員より、本年五月九日はマナスル登頂四十周年に当たり、登山許可取得に際し多大の尽力をされ、登山隊も大変お世話になり、マナスル登山成功に大きく貢献をされたクリシュナ・バハドゥル・バルマ氏を本会名誉会員として遇することを提案したい旨の説明があり、全員一致で承認された。

③全国支部懇談会について、本年担当・東海支部の長坂評議員より十月五～六日、奥三河において、五日はフォーラム(中・高年登山の問題)、六日は登山・岩登りの予定で行うとの説明があった。

K2登山隊一九九六 宇田川

日本山岳会青年部K2登山隊一九九六、松原副隊長の現況説明として

近畿版・創刊!

登山・ハイキング バス時刻表

●登山やハイキングに利用できるバス路線、停留所に絞り込んで時刻を掲載!

●〈関東版'96夏秋号〉
東京・埼玉・神奈川・山梨・静岡(東部分)・群馬・栃木(西部分)・長野(中央部分)の方面を満載!

●〈近畿版'96夏秋号〉
三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪・兵庫の方面を満載!

関東版・近畿版とも
B6判・定価1200円(税込) 書苑新社 tel.03-5285-7445

- ・ 四月二十七日 富士山第五回トレニング終了
 - ・ 四月二十八日 K2登頂経験者を迎えてのレクチュア
 - ・ 五月十一日 隊荷梱包終了 運送業者渡し
 - ・ 五月十四日 壮行会
 - ・ 五月二十一日 ネパール経由隊員 成田出発
 - ・ 五月二十四日 パキスタン経由隊員 成田出発
 - ・ 五月三十一日 本隊 成田出発予定、などが報告された。
- 海外連絡委員会 熊崎
七月十日(木)～十六日(火)まで、蔡会長を始めとする中華民国山岳協会の訪日団一行四十名が来日の予定。滞

山の切手⑨ 一相山之良

山岳会周年記念・I



1968年3月14日スイス発行。スイス女性山岳会50年記念。

イギリスで、アルパイン・クラブが創立されたのは一八五七年だった。アルプスの周辺諸国もこれにならい相ついで山岳会を設立するに至る。一八六二年オーストリア山岳会、一八六三年スイス山岳会とイタリア山岳会、一八六九年ドイツ山岳会、一八七〇年フランス山岳会が発足した。スイス山岳会は、一九六三年に創立百周年を迎え、記念切手が発行された。切手の構図は、花崗岩の岩肌の上に、山岳会のバッジをあしらったものだ。同会は女性の入会を制限したので、一九一八年スイス女性山岳会が生まれた。その五十周年に当

たる一九六八年には、アルプスの山並みを圖案化した記念切手が出ている。

一九六三年イタリア山岳会は、百周年の記念出版として、イタリア山岳案内二十三巻を刊行したが、記念切手も発行された。コチアン・アルプスの最高峰モンテ・ヴィゾを背景に、ピッケルとザイル、山岳会の紋章を描いている。トレント山岳協会は、一八七二年に設立され、百周年を記念する三種の切手が発行された。トレントの岳人たちの揺籃の地・ブレント山群をバックに、登山者と協会のバッジをとりあげている。イタリアでは、ほかに山岳連隊百周年の記念切手がある。

フランス山岳会の百周年記念切手は、一九七四年に発行された。ゼ克蘭山群の名峰ラ・メイジュと、アルプス三名花のひとつエンチアンを描くもので、山岳会のバッジとほぼ同じ図案だ。ラ・メイジュは、アルプスの主なピークが登られたあとも長い間不落を誇った峻峰で、各国の登山家によって二十四回もの試登が繰り返され、一八七七年フランスのアルピニストがようやく初登頂に成功した。フランスにとって、最も偉大な初登頂に数えられる栄光の山なのである。



1972年9月2日イタリア発行。トレント山岳協会100年記念。



1974年3月30日フランス発行。フランス山岳会の創立は1870年だが、切手には1874年となっている。



1963年3月21日スイス発行。スイス山岳会100年記念。



1963年3月30日イタリア発行。イタリア山岳会100年記念。

在中は海外連絡委員会を中心に総務委員会・集会及び信濃支部・岐阜支部の協力を得て、訪日団の世話に当たる予定であるが、とくに歓迎レセプション等は本会役員の方々の出席をお願いしたい。

●指導委員会

熊崎

①五月三日(金)～六日(月)に剣岳周辺において、指導委員会委員自身のレベルアップを図ることを主目的とした研修合宿を開催した。参加者は指導委員会委員四名と委員希望者二名。天候には概ね恵まれ無事計画どおり当初の目的を完遂した。

②六月三十日(日)に青年部と共催の谷川岳合宿において、初中級者対象の確保理論を中心とした岩登り講習会を開催する予定。参加資格は問われないが、各大学山岳部においては新人など多数の参加を期待する。

●遭難対策委員会

熊崎

①日本山岳レスキュー協議会では六月八日(土)に総会及び設立三周年記念パーティーの開催を予定している。

②四月二十一日(日)に代々木オリンピック青少年センターにおいて日本山岳協会ほか山岳四団体の合同で、プラスチックブーツ突然破壊問題に関するシンポジウムを開催した。神奈川工業大学・大石不二夫教授による講演「プラスチックに関する基礎知

識」を始め、メーカーサイドから(株)日本スポーツ工業協会・重廣恒夫氏の「普及の現状」、小売店を代表してICI石井スポーツ営業部長・越谷英雄氏が「販売店での対応等」を報告した。また突然破壊の体験者による報告談のほか、パネルディスカッションが行われ、大変内容の濃いシンポジウムとなった。

●山岳研究所運営委員会

四月二十九日(月)山研開所、九日現在五月の宿泊申し込みは百二十五名。閉所時期については十月末に水道配管が凍り始めるので、早めに検討したい。

●資料委員会

七月に中華民国山岳協会訪日団の山研来所に合わせて、台湾山岳に関する資料とマナスル(本年はマナスル登頂四十周年に当たる)に関する資料を展示して対応したい。

●図書委員会

山行「古道を尋ねて」妻坂峠を越えて六月八日(土)十時西武秩父駅改札口集合(雨天決行) 生川 妻坂峠(名郷(自由参加))

●総務委員会

五月十八日(土)水道橋グリーンホテル支部長会議・十時三十分〜十二時
九十周年記念事業委員会及び関連委員会解散式・十三時〜十三時三十分
総会・十四時〜十六時

懇親会・十六時三十分〜十八時

●集会委員会

・サクラハイイク 四月十四日、奥多摩・陣馬山、六十名参加 95同期会発足

・若葉会山行調査山行 五月十一日(土)〜十二日(日)

・若葉会山行 五月二十五日(土)〜二十六日(日) 二十回記念誌発刊、記念イベント 新潟県入広瀬村ベース 二十五日越後金城山 二十六日浅草岳

・講演会「カジタのピッケル・アイゼン」 七月九日(火)十九時〜講師 梶田民雄氏(カジタ製作所) 山岳会ルーム 会費千円

総会議事録署名人 高原三平・堀嘉余子両会員

●会員異動
物故

伊藤昌弘(八二〇五) 7・5
樋山規夫(七一五八) 7・11
高橋重子(一〇三二八) 8・3・13
奥村弘信(九九二二) 8・3・14
曾根義一(五三〇五) 8・3・26
大江勝廣(八七七一) 8・4・5

退会
小林正和(一〇六九三) 8・4・30
石川美知子(八四四二) 8・4・30
白井 彰(二〇七一六) 8・4・30
白井幸彦(一一〇三〇) 8・4・30

小川一郎(二〇〇八五) 8・4・30
下崎 広(八六七二) 8・4・30
田川 研(二一五八一) 8・4・30
高橋洋一(二〇〇九〇) 8・4・30
田寺由紀(二〇八〇七) 8・4・30
花井 馨(二〇六九二) 8・4・30
沼田 正(一一一〇六) 8・4・30
中村直昌(二〇〇八二) 8・4・30
西村 忠(九九五九) 8・4・30

終身会員
新井信太郎(四三六七)
島根康郎(四二五四)

●計報
本会名誉会員・大澤伊三郎氏(会員番号一〇五九)は六月五日、九十八歳の天寿を全うされ、自宅にて死去されました。葬儀は六月七日、甲府市・長禅寺で執り行われました。ご冥福を祈りご報告いたします。

5月
7日 資料委員会 アルパインズケッチクラブ

8日 常務理事会 青年部 山の自然学 ジャック93会

9日 理事会 集会委員会 学生部 95同期会

10日 海外委員会 フォトビデオクラブ

ルーム日誌

7日 資料委員会 アルパインズケッチクラブ

8日 常務理事会 青年部 山の自然学 ジャック93会

9日 理事会 集会委員会 学生部 95同期会

10日 海外委員会 フォトビデオクラブ

11日 海外委員会 フォトビデオクラブ

トレッキングのバイオニア

アルパインツアー

「世界の山旅・辺境の旅」

世界の山旅・辺境の旅をご案内して今年で創業27年を迎えました。国内の山旅やアルプスのハイキングからヒマラヤのトレッキングまで。世界の山旅のことなら、どんな事でもお問い合わせください。

運輸大臣登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 IATA公認代理店
アルパインツアーサービス株式会社

本社: 千105 港区新橋2-13-8 新橋東和ビル5階 TEL 03-3503-1911
大阪/ 06-444-3033 名古屋/ 052-581-3211 福岡/ 092-715-1557
仙台/ 022-265-4611 広島/ 082-542-1660 札幌/ 011-711-7106 (リフト観光)



13日 集会委員会 図書委員会
14日 アルパインズケッチクラブ
15日 三水会
16日 集会委員会 学生部
17日 集会委員会
20日 フィルムビデオ委員会 アルパインズスキークラブ
21日 山研委員会
22日 青年部
23日 科学委員会 学生部 95同期会
24日 山岳編集委員会
27日 資料委員会 総務委員会
28日 自然保護委員会
29日 遭難対策委員会 海外委員会
5月来室者556名

INFORMATION



◆ルームの夏休み

夏休みのため左記の通りルームを閉鎖します。

八月十九日～二十四日

◆上高地自然観察会のお知らせ

自然保護委員会・山の自然学研究会
今年の夏も山研運営委員会の協力で、上高地のインタープリアー活動を行います。

第32回 観光週間

8月1日～7日

国民の観光に関する正しい観
念の普及、観光資源の保全、
健全な観光旅行の促進等に關
し、「観光週間」を実施し、
積極的な広報活動を推進する。

地に、よく知っている山に、今まで
気づかなかった別の自然の面白さが
あることを再発見してください。梓
川の岩魚や柳、田代池や明神池の歴
史、穂高の成り立ち、希望者には横
尾の氷河の痕跡のところへも。
我々の上高地がなぜ美しく大切な
のかのご案内をいたします。

日時 八月一日～三十一日
場所 上高地・山研(自然解説員・
山の自然学研究会員常駐)

◆特別企画

八月十～十二日 天狗原の氷河公園
八月二十五～二十七日 蝶ヶ岳行
申込 現地まで前日までに、特別企画
は事前に
連絡先 畑中耕一(担当)
TEL・〇四六二一五二二二五二一六

◆創立五十周年記念山行

越後支部創立五十周年を迎える記
念山行を、越後の中央部にそびえる
「越後駒ヶ岳」で開催いたします。

日時 九月二十八日(土)～二十九日(日)
日程 二十八日 大湯温泉で懇親会
二十九日 ①越後駒ヶ岳コー
ス(七～八時間) 健脚向き

②銀の道コース(約五時間)
新潟県北魚沼郡湯之谷村大湯
温泉村上屋旅館

費用 一万五千元(宿泊、懇親会、
弁当、記念写真、記念品代等)

申込 住所、氏名、性別、年齢、会
員番号、所属本部・支部名、
宿泊所への来場方法(自動車、
電車の場合はJR浦佐駅から
バス希望等)を明記の上ハガ
キで、〒九五七七 新発田市大
栄町五一八―一五 田邊信行
方越後支部事務局

締切 九月十日必着、定員八十名。
*申し込み者へは詳細案内を送付し
ます。

◆後立山連峰山行のご案内

94同期会

日時 十月五日(土)～六日(日)
場所 鹿島槍ヶ岳、爺ヶ岳
集合 五日十一時
扇沢・爺ヶ岳登山口
費用 一万円(種池山荘一泊三食)
交通費などは各自負担

申込 会員番号、住所、氏名、電話
番号を明記の上、返信用の封
筒(八十円切手貼付)と申込
金三千円を添えて、八月二十
日までに
〒一八三 府中市押立町一
三四―一 コーポ府中三一―
〇〇九 菊川忠雄宛
TEL・〇四三三―一六三―九一八〇

◆自然保護全国集会と雨飾山登山

自然保護委員会

九月七日(土)～八日(日)、於小谷温泉
(既報)の詳細が決まりました。連

絡は、〒一六七 杉並区西荻北二
一〇―二二―五〇二 近藤 緑まで。
◆岩橋崇至写真展
「名水―黒部の流れ」

「黒部の名水」の故郷である黒部の
源流から、瀬、淵、早瀬、溪谷と、
ダイナミックに姿・形を変化させて
流れる黒部の表情を、大型カメラで
とらえた迫力ある映像。本年一月、
黒部市国際文化センターで好評だっ
た展覧会。この夏、大町市で展示。
期間 七月二十二日(月)～八月三十一
日(土)

◆場所

大町市日向山高原「くろよん
ロイヤルホテル」大系線信濃
大町駅より車で十五分

◆入場料

無料
問合せ くろよん観光協会の太田
TEL・〇二六一―二二―一五六二

訂正 六月号六ページの「山と医療」
のタイトル「Y.I.A.A医療委員会公
認基準」は「U.I.A.A……」の間違
いでした。お詫びして訂正します。

日本山岳会会報 山 614号

1996年(平成8年)7月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 村木潤次郎
編集人 伊藤 敏
印刷 株式会社 双陽社